
魔法先生ネギま！普通？の先生がゆく

ゴブリン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！普通？の先生がゆく

【Zコード】

Z2679P

【作者名】

ゴブリン

【あらすじ】

麻帆良で先生は隠れた魔法使い？

見た目は平凡しかし魔法使える先生

不定期に更新しますので更新はいつになるかわかりません

違う作品も同時に書くので更新は遅いと思いますがよろしくお願ひします

ネギが麻帆良に来るところから始まります

主人公紹介（前書き）

前回の作品と同じくいつ投稿するかわかりません
それでもよろしければ読んでください

12月18日修正しました

主人公紹介

主人公設定

名前

沢田 守孝さわだ もりたか

性別・年齢

男・24歳

身長

175CM

体重

48kg

容姿

髪、瞳ともに黒色で髪型は耳にかかるかからないか位のちょっとくせのある感じのかみ

所属

2-A副担任

詳細

7歳の時に麻帆良学園に来て中学の時エヴァと同じ学年だった魔力がナギ並みにありいつも指輪で魔力を隠している（指輪は麻帆良に行く前に親からもらひはすしてはいけないと言われた）

中学2年生の時にエヴァに魔力がばれて呪いを解除できるかもしれないと思い弟子にされた

学園の外に出れるように一応したが1日しか持たないしかし後ネギの血があれば呪いを解くことができる

認識阻害がきかず小さい頃から可笑しいと思っていた（学園のもエヴァのも効かない）

特技に魔法具生成

学園側は魔法を使えることは知らない、知っているのはエヴァとチヤチヤゼロと茶々丸のみ

すでにエヴァクラスの魔法使い

顔がばれないように戦闘の時は黒い鎧を着ている（イメージファイ

ヤーエンブレムの漆黒の騎士）

エヴァの家に居候中

闇・火・雷の属性

主人公紹介（後書き）

このよつな^{設定}でよろしいのであれば読んでください

子供先生現るー.? (前書き)

投稿しますが文章がおかしかつたり誤字脱字があつたら教えてください

学園長室での話までです

子供先生現るー?

皆さんはじめまして私麻帆良学園の女子中学校で教師をしております
す沢田 守孝と申します

今日は新しい先生が来るらしいので学園長室に向かつてあります
さて、どのような先生が来るんでしょうか? 楽しみです

学園長室の前に指導教員のしづな先生が立っていました

「あら、沢田先生おはようございます」

『おはようございますしづな先生。新しい先生はどのような方ですか?』

「見てからのお楽しみですよきっと驚きますから」

『は、はあ・・・』

『・・・・・ひむわかつた! では今日から早速やつてもいぬつかの指導教員のしづな先生と副担任の沢田先生を紹介しよ!』

「では、はいりましょうか」

『はい』

しづな先生が扉を開けて入ると

「む、」

なにやら声が聞こえた

「あら御免なさい」

『はあつ! ?』

「分からぬことがあつたら彼らに聞くといい」

『学園長? どうこうことです? 何故子供が先生なのですか? いつもいつも学園長は法律を無視しますね! 労働基準法というものをご存知ですか? この子どう見ても小学生でしょ! 義務教育はどうしたんですか? まつたくその糞長い後頭部には何が入ってるのやら? もしかして豆腐でも入ってるんですか? このぬらりひょんめ魑魅魍魎の主が! 後頭部削ってくださいはつせり言つて初めに子供のころ見てその後頭部夢に出てきましたよ』

「最後の方酷くないかのぉ・・・」

まだまだ言いたいことはたくさんあるんだがまあいい
『で？先生お名前は？』

「あつネギ・スプリングフィールドです、
スプリングフィールドへビ」かで聞いたことがあるような？

「よろしくね」

『まあよろしくお願ひしますね ハアツ』

「そういうもう一つこのか アスナちゃん暫くはネギ畠お前たちの
部屋に泊めてもらえたんかのまだ住む所きまつとらんのじやよ
「み やじのじやよ」

この妖怪なんて言いやがった？

『近衛さん？ハンマー持つてましたよね？貸してくれません？』

「もつと今私はとてもいい笑顔になつているでしょう

「もつとるけど何に使うん？」

『妖怪退治ですよ』

「ならええよー」

『IJのか貸してはいかんぞわしが殺されてしまつ』

「つーん、一応おじこちやんやし殺されんのみたくないから許した
げて？」

『今回だけですよ』

「何から何まで学園長——」

「かわえーよこの子」

「ガキは嫌いなんだつてばつ

「仲良くしなれー」

『もう少しでホームルームが始まるので行きますよ』

結局ネギ先生は神楽坂さんと近衛さんの部屋に泊まることになった

続く

子供先生現るー!?(後書き)

明日が明後日位に2話目を投稿します

2話（前書き）

本日更新します
文章などがおかしい場合はお知らせください
修正いたします
では今回もどうぞ

『はあ……』
ネギ先生に会つてから私はため息が多くなりましたね
まだ10分くらいしかたつていないといつのに何故この一人は仲好
く出来ないんだろうか

むへへへ
ふんつ

「あの……」

「あんたなんかと一緒に暮らすなんてお断りよ……寝袋ででも暮ら
せばいいでしょ……」

10歳にそれはきつすぎるような気もしますが気持ちはわかります、
いきなり見ず知らずの異性と暮らせと言われてはこうなるのも仕方
ありませんね……

「じゃあ私は先に行きますから先生……」

「あ……」

「酷いなー」

「ふん」

「なんですかあの人は～～～」

「ウフフ…あの子はいつも元気だからねでもいい子よ」

『良い子なのは同感なんですが元気すぎるといつかなんといつか…
しかし何故こんなことになつたんですか？いくら神楽坂さんが子供
嫌いでもこんなに言つことはなはずですが、ネギ先生何かしました
か？』

「あ…はい、朝に占いで失恋の相が出ていたと呟つてしまつたんで
す」

だからあんなに怒つていたんですか納得しました

『彼女は年頃の女の子ですよ？失恋の相が出ているなんて言われた
ら怒るのも当たり前でしょ』

「でも、僕は本当のことしか言ってないのに…」

『この子は一般常識が足りませんね』

『言つてはいけない事もあるんですよ分かりましたか？』

「はい…」

「はいこれクラス名簿」

「あ、どうも」

「それよりも授業の方は大丈夫なの？ネギ君」

『まあ私も教室にいますので緊張せずに頑張つていきましょ』

「あ…う…ちょちょつとキンチョーしてきました」

「ほらここがあなたのクラスよ」

『よく黙が仕掛けられているので気を付けてくださいね』

「あ、はい」

このクラスは特徴のある人が多いですから覚えやすいでしょう

「早くみんなの顔と名前覚えられるといいわね」

「あうっ…」

『このクラスはほかのクラスよりも覚えやすいと思いますよ？特徴的です』

「まあ…そうね…」

十中八九黙があるでしょうから私が先に入った方がいいでしょう

『あのネギ』「失礼しま…」あ…』

黒板消しトラップですかよけるのは簡単ですね

ぴたつ…

黒板消しがネギ先生に当たる直前で止まりました

彼は魔法使いでしたか…障壁ぐらい切つておきましたよ

ざわつ…

クラスのみんなが不審に思っていますよ？

ボフツ

「あらあら

「ゲホゲホいやー、あはは、なるほど、ゲホ、引っかかるちゃたな
あ、ゴホ」

ガツ

ネギ君の足にひもが引っ掛けましたね次は何でしょうか

「へぼつ！..あぼあああああぎやふんつ」

見事にバケツが頭に当たりおもちゃの『矢が当たり机にぶつかりま
したね

「あらあら」

『はあつ...』

「えつ...」

「あ...あれ...?」

「えーっ子供！?」

「きみ大丈夫！?」

「ごめんてつきり沢田先生だと思つて」

『私なら罷にかつかてもよかつたと思っているんですか？罷を仕掛けた人今すぐ名乗りだしなさい』

「内緒ですよ先生」

『なら全員に宿題+5枚ですね』

「鳴滝姉妹と春日です！」

『そうですかなら3人は放課後新田先生に怒られてきなさい話は通
しておきます』

「「「ええーーっ」「」」

『ならあなた達だけプリンタ5枚プラスして新田先生の後に私も説
教させていただきます』

『その子はあなた達の新しい先生よ。で、血口紹介してもうおつか
しら』

「は、はい」

「ええとあ...あの...ぼく...ぼく...今日からこの学校でまほ...英語を
教えることになりましたネギ・スプリングフィールドです。三学期
の間だけですけどよろしくおねがいします」

「 キヤアアツか、かわいい――――――――――」

「

大音量ですね周りのクラスに迷惑でしょ。長谷川のトーンショーンのクラスを止める」とは不可能です

しづな先生の隣に立つていても長谷川さんが

「……マジなんですか?」

「ええマジなんです」

『いつももマジかと聞きたい』と云うのですよ……』

「やつぱり普通なのは沢田先生だけだ…」

長谷川さんとはこの学園はおかしいと云う話ををして意氣投合しました
「ネギ君はちやんと教師の資格を持つていてるけど見ての通りあなた達よりも年下よ。お手柔らかにね」

神楽坂さんがネギ先生に近付いて

「ねえあんたやつを黒板消しになんかしなかった?なんかおかしくない?あんた」

早速魔法がばれかけていますね、さてどうなるんでしょうか?

続く

2話（後書き）

中途半端なところで終わった上に全然進まずにすいませんでした
ご意見感想よろしくお願いします

第3話（前書き）

1週間以上更新できずについませんでした
これからは学校が終わったら1話ずつ書いていこうと思います
短いですがよろしくお願ひします
“ ”は念話です

「キツチリ説明しなさいよーーー

「一九四〇年」

しかしにんになさしゃ!!

ハンハン

置のノモ周は房で先生がお困りはないでして、アミ

流石は雪広さんですねしかしこの後に必ず問題を起こすので止めるのが大変ですし周りの人たちは止めようとせずにトトカルチョやりだして止まりませんしこのクラスの副担任も大変です

「アスナさんもその手を離したらどう？ もつともあなたみたいな凶暴なおサルさんはそのボーッズがお似合いでしようけれど

—なんですか？

「ネギ先生、ネギ先生はオッケスフオーレをお出になつた天才だとお聞きしておりますわ教えるのに年齢は関係ございませんどつぞエ Rをお續けになつてください」

雪広さんはいつもはちゃんとしているのにある特定の人間が絡むと…それにしても教えるのに年齢は関係あると思いますよ?

卷之三

「委員長何いい子ぶつてんのよアンタ！」

「あら……子なんだからいい子に見えでこまへのは当然でしょ」「何がいい子よこのショタコン」

七

「言いがかりはおやめなさいあんたなんかオヤジ趣味のくせにいい」
「なつ」

「知ってるのよあなた高畠先生のこと……」

「つぎやあ——その先を書つんぢやね——」の女——つ

「……おせむ」

— やれやれ — !

モニターリング機能

『やめなさい！ 雪広さん、神楽坂さん、はい周りも煽らないで！ 時間ももうないので授業を始めます。ネギ先生お願いしますね』

「あ...はい」

暫くの間は見ているので分からぬところがあつたら質問に来て

二

さて、注意もしましたし授業の様子を見るために後ろに行きます

“おいつ 守孝”

“あつエヴァさんどうしましたか？”

“話すことがあるから今日は早めに帰つてこい！分かつたな！”

“わかりましたよ出来るだけ早く帰りますよ”

語とは何なんでしょう?授業の様子]...また豈れども神

樂場さんか取締りをやめておくれ

廻國に在りてかくも相方の少子を失ふる事無く、先生在懃に在りたる花園境

生は止められないし先生としてはどうなんでしょうね

ネギ先生は近いうちだれかに魔法がばれるでしょうね……

キンコーンカーン

「あ……終わっちやつた……」

授業は全く進みませんでしたねネギ先生は先生に向いてないんじゃ

「むむ……あいつやっぱり何でもなかつたのか――――」

「あんたらいつも元気やなー、今日は沢田先生も止めへんかつたし

どうしたんやろーな

「確かにいつも沢田先生は止めてたけど今田は止めなかつたわね」

『その答えを教えましょつか?』

「わっ!」

「先生神出鬼没やなー」

『ネギ先生が先生に向いているのがどうかが第一の理由ですね』

「そんで先生から見たらどーやつたん?」

『全く駄目ですね、喧嘩を止めることもできなことは…想像以上に
だめでしたね授業も全く進んでないですしあつとしつかりしてもら
わないと先生としてはいけませんね』

「じゃあ今日の喧嘩を止めへんかつたんはネギ先生を試すためなん
?」

『まあそうですね。それより神楽坂さん、近衛さん買い出しに行く
のではなかつたのですか?』

「あ、そやつたわ、アスナちょっと買い出し付き合つてなー」

『私は歓迎会までに仕事終わらせておきますね、準備頑張つてくだ
れー』

「ほな、先生あとでなー」

職員室に向かいますか… 今日せどのへりて仕事があるんでしょうか?

『えつー!…今田はなしですか?』

「ええ、ネギ先生のフォローが大変だらうからって学園長先生が、
ネギ先生の授業は上手くいかなかつたみたいですし」

そこひへんをぶらついておきましょうか

おやつ? ネギ先生こんなところで何をしていろんなんでしょうか?
名簿に何か書き込んでいますね
「フーンだ」

『ネギ先生? こんなところで何をしていろんなんですか?』

「あ、沢田先生一段落ついたのでやすんてるんです、それにしてもカグラザカアスナ…っていう人の態度が酷いんですよ今日はこの人の部屋に泊れって言われたんですけど絶対泊めてくれないと思つんですよ」

『彼女はいい子ですよちょっと元気すぎますけど…あなたの授業かなり酷かつたですよ喧嘩ぐらには止められないと…Aの担任は務まりませんよ』

「そ…そうですね…頑張つてみます」

『そのこきですか』

「あれ……あれは27番の富崎のじかさん…たくさん本を持つて危ないなあ」

『ああ、彼女は本が好きですから図書委員をやつているんですよ』

「…やつぱし…」

『どうしたんですか？ネギ先生』

富崎さん落ちてますね、ネギ先生が杖を構えていますし大丈夫でしょうけど一応下に行きますか

「きゃああああ！」

あそこには神楽坂さん？…ネギ先生ついに魔法がばれましたねあっネギ先生が神楽坂さんにお姫様だつて連れてかれましたね

『富崎さんはこぶの手伝いましょうか？』

「あぶぶぶぶ」

そういうえば富崎さんは男性が苦手でしたね

『半分ほど持つので先に歩いてください10メートルほど離れてついて行くので』

いやああああああああああ

?神楽坂さんの悲鳴みたいなのが聞こえてきましたね
ネギ先生が何かしたんでしょう

続
く

第3話（後書き）

火、水、金、土、日更新を目標します
原作の会話少し削った方がいいでしょうか?
これだといつまでたつても修学旅行編にいけませんし
呪文のキーを募集中ですいいのがあつたら感想に送つてくださいね
願いします
感想なども受け付けています

第4話（前書き）

更新します

もつそろそろ冬休みに突入するので更新速度が上がると思います

指摘があつたので主人公紹介修正しました

「」のまえに名字を書こうと思います

指摘や感想をお願いします

短いですけども読んでいただけると幸いです

第4話

宮崎さんと本を運んで少ししてから教室に向かうとエヴァさん、茶々丸さん、神楽坂さん以外2・Aの生徒たちがいました。何やら作業をしているようなので一番近くにいた朝倉さんに何をしているのか聞きましょうか

沢田「朝倉さん何をしているんですか？」

朝倉「おっ、先生いいところに来たね、今ネギ先生の歓迎会の準備してる所なんだよ」

ネギ先生の歓迎会ですか…お祭り好きな2・Aの生徒は何かあるとすぐに騒ぎを起こしたくなるような癖がありますし
ネギ先生が来たことでお祭り騒ぎをするんでしょうね
相変わらずエヴァさんは皆と一緒にいることが少ないですね。私としてはもうひとみなんと仲良くしてほしいのが本当のところなんですが年齢が年齢ですし中学生と一緒に騒ぎのは無理がありますか…

朝倉「もつちよつとでネギ先生も来るだらうじ先生も参加して行ってよ、高畑先生もしづな先生も来るしね」

沢田「途中で抜けると思いますが参加しますよ楽しそうです」

エヴァさんに早く帰つてくるように言われましたから

速く帰らないと何されるか……いつかのように呪文的？エヴァさんと茶々丸さんとチャチャゼロによる模擬戦という名のリンチ？どれも別荘で4ヶ月は療養しましたね茶々丸さんが学園長に風邪で休みだと嘘をついてくれなかつたら今頃私が魔法を知っていることばれてしまつていたでしょうね

朝倉「先生、ネギ先生が来たよ、クラッカー用意して」

ガラツ

2・A「ようじや ネギ先生ーツ」

ネギ「へ…」

神楽坂さんも驚いてますね…もしかして何があるか流石に忘れてた
わけないですよね?

神楽坂「あ…そーだ、今日あなたの歓迎会するんだつけ…忘れて
た!コレ買い出し」

本当に忘れていたみたいですね…しうがない子ですね
勉強の方は数学だけ最近ちょっとはましになってきたんですがね

ネギ「え―――」

「ほりほら主役は真ん中」

ネギ「わあー嬉しいなあ」

高畠先生の近くに座りますか…ちょっと話したいこともありますし

沢田「高畠先生隣いいですか?」

高畠「おつ沢田先生どうぞ」

ネギ先生がこっちに來たので一言いっておきますか

高畠「やあネギ君初日の授業お疲れまだったね」

沢田「ネギ先生もあの騒ぎを自分で止められるようにならないといけ
ませんね」

ネギ「いやーーなかなかうまくいかなくつて…」

沢田「私も最初の方は大変でしたけどもなれば止められるようにな
るとと思うので頑張ってください」

ネギ「沢田先生…ボク頑張りますっ！」

沢田「そつそのいきですよ私は用事があるのでこれで失礼しますね」

早乙女「あれ？沢田先生帰っちゃうの？」

沢田「ええ、ちょっと用事がありましてねちゃんととかたづけてから帰ることあまり遅くならないようここに来ておいてくださいね」

早乙女「わかつたよーそんじゃあねセンセー」

沢田「はい、わようなら」

「これならエヴァさんにも遅いとは言われないでしきう暫く歩いてエヴァさんの家にたどり着きました

エヴァ「ほつ…案外早かつたな守孝」

沢田「ええ、エヴァさんに速く帰つて来いと言われましたしそれに歓迎会にいたら何かに巻き込まれる気がして…それで大事な話とは何でしょうか」

エヴァ「守孝…私の呪いを解くのに足りないものを言つてみる」

沢田「あと足りないのは…血縁者の血液だけですね…ってまさか！」
エヴァ「そう、その通りだ奴の息子がこの学園に来たのだつぎの満月あの作戦を実行するぞ」

沢田「分かりましたよ…エヴァさん、私はまたあの姿で行かせてもらいますよ？ばれたら厄介なので」

エヴァ「フンッ好きにするがいい」

茶々丸さんが見当たりませんね…

沢田「そういうえば茶々丸さんはどうしたんですか？」

エヴァ「ん？ああ、あいつなら買い物だ…あと少しだあと少しでこの惡々しい呪いから解放されるのだ！」

そうじつてH-Wアさんは高笑いを始めてしました

茶々丸さんが帰つてくるまで高笑いが続いたことはいつまでもない
でしょう

第4話（後書き）

グダグダですよね…桜通りの吸血鬼まであと3話ぐらいを考えています

また明日か火曜日に更新します

感想・誤字・脱字・指摘などよろしくお願いします

第5話（前書き）

本日投稿します

つぎは明日か26日になります
駄文ですがよろしくお願ひします

今回は三人称に挑戦してみます、問題点などがあれば教えていただ
けるとありがたいです
主人公全然出ません

第5話

s i d e 三人称

神楽坂「高畠先生…あのおいしいお茶が入ったんですが飲んでいただけませんか?」

学校の廊下でアスナがハートマークのなかにホレと書いている見るも怪しい湯呑みを持つてタカミチと向かい合っていた…そして何故か後ろでネギが煙の出るバケツのようなものを持って立っていた

高畠「ふふ、これはホレ薬だろ?そんなもの必要ないわ」

神楽坂「え…ビーウーことですか……?」

アスナはタカミチに尋ねた

高畠「なぜならもともと僕は君のこと愛してるからさ」
はつはつはつはつはと笑いながらタカミチが言いアスナの頬に手を添えた…

高畠「アスナ君…」

神楽坂「た、高畠先生…」

そして二人の顔が近づいていき…

神楽坂「タカハタセン・セ・・」

アスナはネギに抱きつきパジャマが半分近く脱げた状態で目を覚ましたそれに当然アスナは何をしたかと言うと…

神楽坂「キヤー…………」

明け方5時に寮の全域に聞こえるような叫び声があがつた

神楽坂「ちょっととあんた何で私のベッドで寝てんのよつーつーつー」

ネギ「えう…お姉ちゃん…あつ…アスナさん…すすすすいません僕いつもお姉ちゃんと一緒に寝てたのでつい…」

ネギは勉強の方はしつかりしているのだがやはり10歳と言うところまだまだ甘えたがりのようだった

神楽坂「な、何よそれ!?全く子供なんだからあちゃんとソファ

「貸したげたでしょう！」

二人の叫び声で下のベッドで寝ていた木乃香が起きたことは二人とも気づいていなかつた

神楽坂「わつもう5時じゃない行つてくるねこのかーー」

ガタン ドタ バタ

アスナは目視出来ないような速さでパジャマから制服に着替え部屋を飛び出した

ネギ「アスナさんどこへ？」

木乃香「んーーバイト」

このかは眠そうな目を擦りながらネギの質問に答えた

木乃香「ネギ君朝ごはん作つてあげるよ田玉焼きとスクランブルエッグどっちがええ？」

ネギ「あ…じゃあ田玉焼きで」

木乃香「了解」

ネギ（そうだつた…僕…先生になるために 日本の麻帆良学園つて所に来て昨日アスナさんとこのかさんの部屋に泊めつてもらつたんだつた）

神楽坂アスカは走つていた

神楽坂「あの糞ガキー泊めなきやあよかつたわ！」

沢田「神楽坂さんおはよう」（れこ）ます今日はちょっと遅いですね

神楽坂「沢田先生おはよう」（れこ）います。沢田先生朝ちょっと…」

沢田「ネギ先生ですか？」

神楽坂「そうなんです！せつかくいい夢見てたのにあいつのせいです！」

沢田「まあまあ、落ち着いて彼だつてわざとやつてるわけでもないんですし…あつそういういえば時間大丈夫ですか？」

神楽坂「えつ、あ、すいません先生私急ぎますね！」

沢田「がんばってくださいねー」

神楽坂「全くもーバイトも遅刻しちゃったしホントあんたなんか泊めるんじゃなかつた」

ネギ「えうつ僕のせいじゃ……」

木乃香「仲悪いなー」「人とも」

神楽坂「いいこと?」

ネギ「は ひやい！？」

アスナがネギの耳を引っ張つて

神楽坂「あんたの正体が魔法使いだつて知つてるのは私だけなんだからね。いい加減にしないとばらすわよ！！ そしたら大騒ぎになつてあんたなんか魔女裁判で火あぶりよ火あぶり！」

ネギ「ええー————つ！？」

ネギの頭には自分がロープでつるされて火に焼かれている映像が流れた

神楽坂「冗談よ でも私には逆らうんじゃないわよ～～～」

木乃香「？」

ネギ（うう僕先生なのに…）

ネギ「あの昨日行つた魔法のホレ薬どうします？ホントに4力用で出来ますけど」

神楽坂「え……」

今度はアスナの頭にタカミチの顔が近づく映像が流れた

神楽坂「なつ……なな……なーにいつてんの！！」

アスナがネギの背中をしばきバーン！とすごい音が鳴つた

ネギ「わあっ」

神楽坂「勇気がホントの魔法つてのはあんたが言つたんでしょ 自分の力でなんとかするわよ」

アスナは迷いなく言いきつた

ネギ「あ……（え、えらい！やつぱり見た目よりいい人だ）アスナさんスゴイなあ 僕も頑張らなきゃ」

アスナとこのかは靴を履き替えるためネギといつたん離れた

ネギ「3月までの間 立派に先生を務めておじいちゃんみたいな立派な魔法使いになるんだ」

そうしてネギは職員用の下駄箱に向かつた

ネギ「ん？ん〜〜と届かな…」

しかし自分の場所に手を伸ばしてみるが届かない

その時後ろから手が伸びてきた

雪広「おはよ〜〜」わいしますネギ先生教室まで〜案内いたしますわ

後ろにいたのは雪広 あやか2・Aの委員長だった

ネギ「おはよ〜〜ぞいしますいいんぢょーさん」

雪広「雪広あやかで〜れこます昨晩はよく眠れましたか？」

ネギ「ええとつても」

2・Aの教室の前に来ると富崎のどかが窓から廊下を見ていた
ネギ達を見つける

宮崎「あ・・」

ネギ「あ、おはよ〜〜ぞこます富崎さん」

富崎「おは、おはよーです」

これからネギのちゃんとした初めての授業が始まるのだった

第5話（後書き）

主人公全然出なくてすいません

ちよつとしたお知らせ

前回冬休み中に投稿するとかほざきながらまつたく投稿しなかつたこの駄目な作者からの質問です

私が書いているこの小説皆さんから見て面白いですか？

私は自分で読み直しても恥ずかしかったです

口調はおかしくなるわ地の文も説明風で読みにくいくと思つてしましました・・・・

なので皆さんにお聞きしたいのです

この小説を書きなおそうと思つています

主人公の設定などは変えませんが地の文や原作キャラの口調やらをもつと学んでから書いていきたいと思います

皆さんには書き直した方がいいかそれともこのままでいいか教えてほしいのです

皆さんご協力よろしくお願ひいたします

活動報告に書いてもらうかも感想として送つていただかしていただけるとありがたいです

書き直すとしたら原作1話をして1話に書きこむといつ長い文章になると思ひますのでよろしくお願いします

ついでに主人公の始動キーを応募しています 作者にはセンスのかけらもないでの3週間ほど考へても思いつきませんでした

どうかご協力を願いします

これからもこの駄目作者を見放さないでいただきたいと思います
何かアドバイスがあつたら教えてください文を作るのは初心者な
で

第6話（前書き）

何とか出来ました…暫く書いていなかつたのでおかしなところがあるかもしれませんがそこは田をつぶつていただければと思います
今回は今までで一番長いと思いますが会話の部分が多く地の文が少ないです

次は日曜日にでも投稿します

第6話

side 3人称

ネギがドアを開けて教室に入るときに仕掛けられていた黒板消しが落ちてくるのを雪広がキャッチした

宮崎「き、起立——氣を付け——礼い——」

2-A 「おはよー『ございます』」

ネギ「お・・おはよー『ございます』」

宮崎「着席——」

何故聞こえるのかはわからないが口パクでアスナとネギは会話をしていた

アスナ『しつかりやんなさいよ』

ネギ『わ、わかつてますよアスナさん』

窓側にいた沢田が立ちあがつて言った

沢田「ネギ先生、授業を始める前に言っておきますが何か教師としていけないことをしたら自罰にして説教をするのでそれは分かっていてくださいね?」

ネギ「あ、はいわかりました」

沢田「では、授業を始めてください」

ネギ「では一時間目をはじめテキストの7-6ページを開いてください」

ネギが促して授業が始まった

ネギ「The fall of Jason the flower
r . Spring came . Jason the flower
was born on a branch of a tall
l tree . Hundreds of flower were
born on the tree . They were all
l friends .

ネギ（昨日は上手くいかなかつたから今日は頑張らないと…）

ネギ「今の所誰に訳してもいいかなあ……えーと…」

ネギが教室を見渡すとネギが歩いてきた付近の生徒は顔を逸らした
沢田（全く……みんな全然答える気がありませんね…次の時間から
全員当たるようにならしめようか…でもそんなことしたらエヴァさん
が怖いですしどうするべきか…』

ネギがちょうどアスナの前に来た時アスナはすごい勢いでペン回し
をしながら田をそらしていたというよりも顔をそらしていた

ネギ「じゃあアスナさん」

しかしアスナの健闘もむなしくネギはアスナに訳すように言った
アスナ「な…何で私を当てるのよつ…？」

アスナは何故自分が当てられたのか分かつていなかった
ネギ「えつ…だって」

神楽坂「フツーは日付とか出席番号で当てるでしょ」

ネギ「でもアスナさんは前じやん」

ネギ「あと感謝の意味も込めて…」

神楽坂「何の感謝よつ！？」

雪広「要するに分からないんですね。アスナさんでは委員長の私
が――」

パンパン――

教室に手をたたく音が響いた

沢田「ネギ先生少しいですか？」

座っていた沢田が立ちあがり行つた

ネギ「えつ？あ、はいどうぞ」

沢田「雪広さん？、人をバカにするのはあまり良いことではありませんね…それにこの問題をあなたが解いてしまっては神楽坂さんはこのまま分からなくなるかもしれないところが増えてしまい授業についていけなくなるかもしれませんので此処は神楽坂さんにやらせてあげなさい…分かりましたね？」

雪広「ええ、分かりましたわ」

沢田「では、神楽坂さん落ち着いてよく考えてみてください」

神楽坂「分かったわよ…訳せばいいんでしょ？訳せば…」

神楽坂「ジェイソンが…花の上…に落ち春が来た？ジェイソンとその花は…えと…高い木で食べたブランチで…骨が100本？」

神楽坂「えーと…骨が…木の…」

アスナは全く意味の通じない日本語を並べていた

そんなアスナの様子にネギは

ネギ「アスナさん英語ダメなんーー」

パンパン!!

ネギの言葉は途中で手をたたく音に遮られた

音が鳴った所には沢田がいてそして沢田はこう宣言した

沢田「はい、皆さんこれから自習になります、騒いで周りの生徒に迷惑をかけないようにしてしていくくださいね」

ネギ「え？あ、あの授業は？」

沢田はいつもと同じように笑顔だつたが目は笑っていなかつた…そして3・Aはこれはヤバイと思い静かになつた…

沢田「ネギ先生？私は最初に言いましたよね、何か教師としていけないことしたら自習にして説教をすると…今貴方は教師として決してやってはいけないことをやつてしまつたので説教の時間です」古「ネギ先生沢田先生のお説教はすこしきついアルから頑張るアルよー！」

「

ある教室に1人の男性と1人の正座をした少年がいた

しかし男性は床に正座している少年を見下しながら言った

沢田「ネギ先生？今なぜあなたは怒られているのか分かりますか？」明らかに沢田の声には怒りがこもつていた

ネギ「いえ…分かりません…」

沢田「なら教えて差し上げましょ…さつきネギ先生は神楽坂さんに何を言いかけたんですか？正直に言ってくださいね」

ネギ「アスナさん英語ダメなんですねーーです…」

沢田「それです…もし神楽坂さんが自分で訳さなかつたら言つてもまあいいのですがさつきは神楽坂さんは自分のできる限りの事をしたんですねそれをあなたはバカにしようとした。生徒が頑張つたらまず労いの言葉をかけたほうがいいのですそれなのにあなたは労いもなしに何を言いました?神楽坂さんは英語ダメなんですねーー?ふざけてるんですか?そんな生徒をバカにするような教師はいません」

ネギ「あううひひ」

沢田「ふう…今日は初めてなのでこれぐらいにしておきますがまた何かあつたらすぐに説教しますので。反省したら授業が終わつてから神楽坂さんに謝りに行くよつこ」

ネギ「はい…分かりました」

キーンコーンカーンコーン

ピーンポンパーンポーン

『沢田守孝先生…沢田守孝先生…至急学園長室までお越しください繰り返します沢田守孝先生…至急学園長室までお越しください』

沢田「私は呼ばれたので行きますがこれからは同じようなことはしないよつこしてくださいね?」

沢田は学園長室の前に来ていた

コソコソ

沢田は扉をノックした

沢田「学園長先生…沢田です」

近衛「おお、沢田先生入ってきとくれ」

扉を開くとその奥には後頭部が異常に長い老人が座っていた

沢田「学園長先生? 私に何か用ですか?」

近衛「そうじや、ネギ先生はどうかね? しつかり教師としての責務をはたしているかの?」

沢田「今日は授業の方は問題はなかつたのですが少し先生として相応しくないことをしたので自習にして説教はしました」

近衛「う、うむそつかの、ならいいんじやがネギ君はまだ若いんじやからそんなにきつくしないで欲しいのじやが、ダメかの?」

沢田「甘やかすだけではいけないので私は教師として必要最低限の事を教えようと思うのですが…それに10歳に教師をやらせるのは私はまだ納得していないのですが」

近衛「そういうわれてもの」

沢田「もう決まってしまつてることだからもういいませんが納得していない人がいるということは忘れないようにしてくださいね」

近衛「わかったのじや」

沢田「では私も授業があるので何もなければこれで失礼しますが」

近衛「うむ、もう行つてもらつてもかまわんよ」

沢田「では失礼します」

ガチャン

沢田は廊下に出て一息ついてから言った

沢田「さて、授業に行きますか…次は3・Bですね…」

しかしながら、またネギによつて事件が引き起こされると、その時は知らなかつた

第6話（後書き）

感想や評価お願いします

今も沢田の始動キーを募集しています

何かいいのがあつたら教えていただけたらありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2679p/>

魔法先生ネギま！普通？の先生がゆく

2011年1月29日02時34分発行